

はじめに

島根県立大学総合政策学部では、2011 年度秋学期（後期）より、1 年生を対象とした必修科目のフレッシュマン・フィールド・セミナーを開講している。この授業は、学生が地域の現場におもむき、見学、体験、調査等を行うことにより、問題発見・解決のための基本的な態度と方法を習得し、同時に、みずからの学習動機を高めることを目的に実施するものである。そのひとつである当ゼミは、農山村集落における野外観察や住民への聞き取り調査を通して、農山村の暮らしと文化、農業の現状と課題を理解することをテーマとし、その対象地域として浜田市弥栄町の 3 つの集落（門田、野坂、日高）を選定した（図 1）。

弥栄町は、浜田市の南部、その中心市街地から路線バス利用で約 55 分の時間距離にある。中国山地に位置する盆地状の地域で、市役所支所がある長安本郷の標高は約 380m である。南東に高くなっており、標高 961m の弥畝山、844m の掛山がそびえている。町域の大部分を流域として三隅川が南西流しており、北東部には周布川が北西流している。年平均気温 12.2℃、年降水量 2,167mm で、冬季には積雪もみられる¹⁾。

1956 年に安城村と杵束村とが合併して弥栄村となり、さらに、2005 年に他の那賀郡の町とともに浜田市と合併し、現在は浜田市弥栄町となっている。2010 年の人口は 1,495

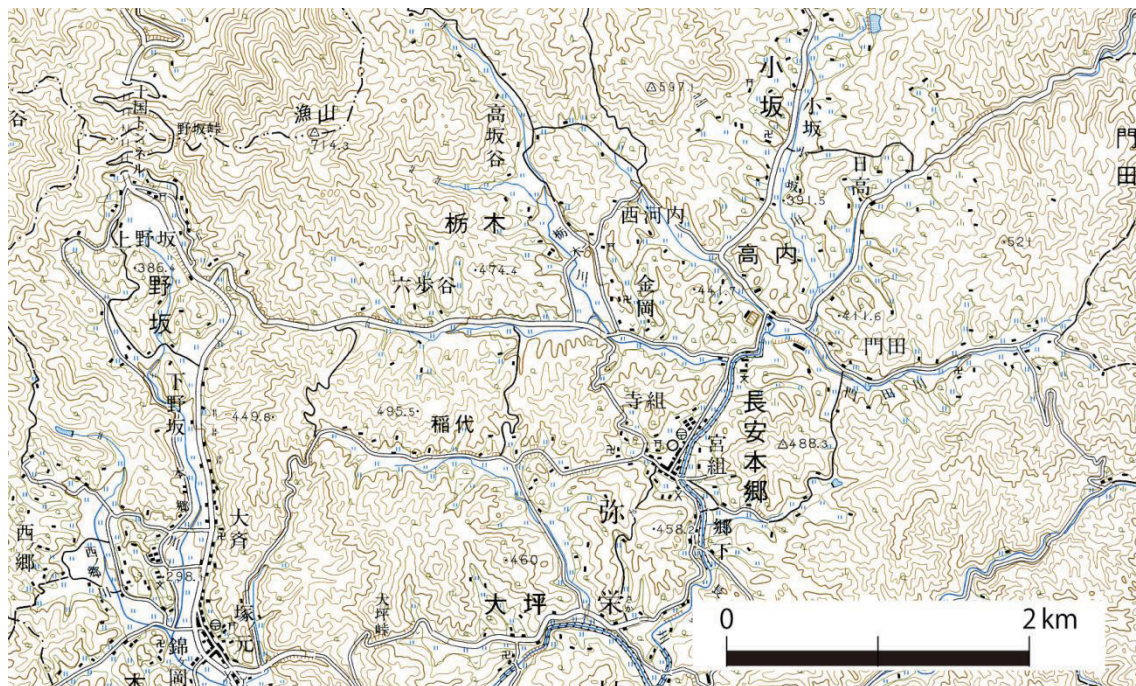


図 1 浜田市弥栄町の主要部

(国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「木都賀」の一部に加筆)

人である²⁾。2000年の人口は1,789人であったので、この10年間に16.4%減少していることになる。高齢化率は45.7%に達している。

授業では、まず、10月18日(木)に現地の景観観察を行った。その後、学生を4~5名ずつ3つのチームに分け、それぞれひとつの集落を担当することとし、11月11日(日)に野坂地区と日高地区の、11月18日(日)門田地区の予備調査を行った。予備調査では、それぞれの集落の代表者に話をうかがった。そして、12月2日(日)に門田地区と野坂地区の、12月16日(日)に日高地区の本調査を行った。それぞれの集落で、3~5軒の家庭を戸別訪問させていただいたが、集会所までお出かけいただいた場合もあった。本報告書は、これらの調査に基づいて、チームごとに作成したものである。

報告書は、それぞれのチームにおいて分担を決め、冬期休業期間を用いて執筆した。休み明けにそれらを集約し、担当教員が添削指導を行うはずであったが、合同成果発表会(1月24日(木)開催)のポスター(資料1)作成に時間と努力を割く必要があり、2月になって、チームごとに学生を招集して対面で指導し、その場で原稿を完成させた。学生が執筆した内容は、まだまだ未熟であり、ともすれば事実誤認も含まれているのではないかと恐れている。その場合は、叱正賜れば幸いである。

報告書には必ずしも十分に表現されていないように思われるが、この授業を通して、学生たちにはさまざまな気づきがあった(資料2)。これらが今後の彼らの学習の課題となっていけば、この授業の目的のひとつは達成できたといえる。これは、ひとえに、予備調査や戸別訪問調査を受けていただいた浜田市弥栄町門田・野坂・日高地区のみなさま、情報提供や現地に入らせていただいた際の橋渡しをしてくださった浜田市弥栄支所産業課のみなさまのご協力おかげである。ここに記して厚くお礼申し上げます。

【注】

- 1) アメダスによる。
- 2) 人口についてはすべて国勢調査による。

担当教員
林 秀 司